



レスポンシブル・ケア

「統合レポート2018」

第三者検証 意見書

2019年7月18日

東京応化工業株式会社
代表取締役社長 種市 順昭 殿

一般社団法人 日本化学工業協会
レスポンシブル・ケア検証センター長



永松 茂樹

■ 報告書検証の目的

本検証は、東京応化工業株式会社が作成した「統合レポート2018」(以後、レポートと略す)を対象として、下記の事項について、化学業界の専門家として意見を表明することを目的としています。なお、検証範囲は財務情報を除くものとします。

- 1) パフォーマンス指標(数値)の算出・集計方法の合理性及び数値の正確性
- 2) 数値以外の記載情報の正確性
- 3) レスポンシブル・ケア及びCSR活動
- 4) レポートの特徴

■ 検証の手順

- ・ 相模事業所において、各サイト(事業所、工場)から報告される数値の集計方法の合理性及び数値以外の記載情報の正確性について調査しました。相模事業所での調査は、レポートの内容について各業務責任者及びレポート作成責任者に質問すること並びに資料の提示・説明を受けることにより行いました。
- ・ 阿蘇工場において、相模事業所に報告した数値の算出方法の合理性、数値の正確性及び数値以外の記載情報の正確性を調査しました。阿蘇工場での調査は、各業務責任者及びレポート作成責任者に質問すること、資料の提示・説明を受けること並びに証拠物件と照合することにより行いました。
- ・ 数値及び記載情報の調査についてはサンプリング手法を適用しました。

■ 意見

- 1) パフォーマンス指標(数値)の算出・集計方法の合理性及び数値の正確性について
 - ・ 数値の算出・集計方法は相模事業所及び阿蘇工場において改善された合理的な方法が採用され、また調査した範囲でパフォーマンスの数値は複数名でチェックするなど、正確に算出・集計されています。
 - ・ まだ一部に残っているデータ転記の作業を自動化する試みを進めるとのこと、今後に期待します。
- 2) 数値以外の記載情報の正確性について
 - ・ レポートに記載された情報は正確であることを確認しました。原案段階では表現の適切性あるいは文章の分かりやすさについて若干指摘しましたが、現レポートでは指摘事項は修正されています。
- 3) レスポンシブル・ケア及びCSR活動の内容について
 - ・ 「社会への貢献」実現をし続ける指針としてマテリアリティへの取り組みを評価します。
 - ・ 2018年12月期の活動では 産業廃棄物の削減、大気・水・土壌環境の保全、生物多様性の保全、法規制への的確な対応で成果をあげていることを評価します。
 - ・ グループ会社を含む全拠点においてリスクアセスメントを実施しています。全社のリスク項目と、各工場並びに関係会社のリスク状況がわかる一覧表を保有しており、それを常にブラッシュアップしていることを評価します。
 - ・ 阿蘇工場では生産工程より排出される有機溶剤廃液のリサイクルによる再生原材料化、プラスチックゴミの分別強化とその原料化による資源の有効活用、また腐食性の高い化学物質のリスクアセスメントの強化を評価します。
- 4) レポートの特徴
 - ・ これまで財務情報と非財務情報を別々の冊子で開示していましたが、本統合レポートで一度に開示することで読者にとってわかりやすく、また読みやすくなっています。
 - ・ CEOメッセージの中で、「新たなイノベーションが世の中で進展する中、お客様や社会が抱える課題に対し、どのようなソリューションを提供することによって価値創造をしていくか」が、簡潔に述べられています。

以上